

25年当初予算に対する反対討論.txt

平成25年度西尾市一般会計予算に対する反対討論

私は、平成25年度西尾市一般会計予算に対し、反対の立場で
討論いたします。

合併後の人件費は大幅に増えていますが、退職金対策としての基金
基積立が不十分であること、消防団3団を1団にする行革すら出来
ないまま経費は増額するなど、合併後の対応に問題があることが理由
です。

市長は、市民や職員に対しては「融和だ、協働だ」とおっしゃる。
しかし、自分から汗を流そうとはしない。自らが説得しようとはしない。
私は去年も同じことを申し上げました。ここが榊原市政の最大の問題
点であります。

まず、財政状況から見ていきます。
市税収入は、エコ減税効果の名残などで7億円の増となり、自主財源
比率は66.5%と2ポイント上がりましたが、リーマンショック以前には
程遠く、先行きはまだまだ不透明です。

また、単純に税収増を喜べないのは、その分、地方交付税の交付額が
減ってしまうためです。減額は3億6千万円で、交付税は31億円に止ま
ります。

総予算額は514億円で、前年より12億7千万円の減ですが、性質別
経費をみると、人件費は24年度の99億9千万円から102億2千万円と
なり、構成比は20%。団塊の世代の退職の影響は当分続くことになり
ます。物件費は、110億円から114億円と4億円の増となり、構成比
は22%に及びることになります。いずれも、増加の一途です。

合併特例の交付金一本算定はあと3年。合併当初の23年には38億円
でしたが、25年は先ほど述べた通り31億円であります。この後は、
さらに段階的に減ります。ここ5年の間に、如何に補助金頼みの体質から
脱却するかが課題であることは、既に何度も指摘してきました。市長は
よくご存知のはずです。

しかし、「合併は究極の行財政改革」と豪語した市長は、その責任を
とらないまま5月の任期満了を迎えることになります。

さて、職員退職金は、24年度は当初予算の6億6600万円から、3月
補正では6億5700万円の増額となり、併せて40人13億2000万円に
上ることになりました。定年退職者の見込み数は25年が40人で、当初
予算には10億5000万円が計上されていますが、26年には51人、27
年45人、そして、28年には66人が退職するといえます。

基金残高は8億円、25年度の積立額は3700万円ですが、私はやはり、
もっと積み増しをしておくべきと考えます。先ほど退職金減額の条例は
可決されましたが、この5年間に246人も大量退職に対応できるの
でしょうか。

旧西尾市では、年間7億円を越す分については全額を基金から繰り入れ、
年度毎の変動を極力抑える方針がありました。準備期間がないとはいえ、
現状はいかにも乱暴に思えます。

非常備消防費は、24年度9500万円が25年度は1億円に増額です。
操法大会に参加する年度だからということですが、23年決算の費用弁償

25年当初予算に対する反対討論.txt

・交付金の合計額は5700万円、24年予算では3700万円に下げたものの、25年度は5100万円に増額です。

合併前の3町時代はどうだったかといえば、平成20年度が5000万円、21年が4200万円、22年でも4600万円でしたから大幅な増額です。もちろん、報酬は別に支給されています。

市長は一体、何を考えているのかであります。理解不能であり、私には市民を愚弄しているとしか思えません。合併効果を出すために頑張っている職員のモチベーションをこれ以上上げるべきではありません。

政策面では、副市長を防災監として、大規模災害にも対応する体制づくりに取り掛かるなど評価すべき点もありますが、述べてきた通り、合併の検証はもちろん、調整もまだまだ先送りが続いています。

さらにこれから、公共施設再配置計画にも取り組まなければなりません。25年度は、モデル事業がいくつか計上されていますが、白バラ学園に関しては、新しい施設を建てたのですから、築40年の施設は解体すべきでありましょう。

維持管理コストに目を向け、じっくり取り組む姿勢が必要と考えます。

財政難は続きます。しかし、これはわかっていたことです。茨の道であっても、市長たる者、毅然としてそれに立ち向かうべきです。

新市住民は、市長の市長としての任務遂行と17万市全体を鑑みた公平公正な予算配分と予算執行に活かすよう求めていることを指摘して、平成25年度当初予算に対する、私の原案反対討論といたします。